

## Ⅱ 職員による H29 目指す児童像と重点的取組に係る評価・反省と改善案（概要） — 職員・保護者・児童の学校評価アンケート結果を踏まえて —

### 要旨

職員・保護者・児童による学校評価アンケート結果を踏まえ、職員が今年度の目指す児童像と重点的取組について評価を行いました。

特に評価の高かった重点的取組は、

- 「音読や暗唱など、相手に伝わるよう、人前で声を出す機会を積極的・計画的に持つ」 (BEST 1)
- 「異年齢交流活動等により、思いやりやリーダーシップを育成する」 (BEST 2)
- 「発表したり、意見・質問を述べたりする機会を、積極的・計画的に持つ」 (BEST 3) でした。

また、特に評価の低かった重点的取組は

- 「学校と家庭で連携し、めあて達成のための努力を認め、励まし、支援する」 (WORST 1)
- 「思いやり・親切」を重点とした道徳的实践力の育成を図る」 (WORST 2)
- 「ありがとう・ごめんなさい」など、人を気遣う言葉がきちんとと言える子を育成する (WORST 3)
- 「挨拶・返事がきちんとできる子を育成する」 (WORST 4)
- 「目標に向かって、進んで体力づくりや、健康・安全な生活が送れる子を育成する」 (WORST 5) でした。

職員・保護者・児童アンケートとあわせ、特に課題となるのは、①家庭との連携、②家庭学習、③道徳的实践力、④言葉遣い、⑤挨拶・返事、⑥姿勢、⑦意見の発言を促す授業改善、です。

重点的に取り組み効果があった…3点、重点的に取り組んだが成果はまだ不十分…2点、重点的な取組は不十分だった…1点として計算。【 】内は職員評価の平均点、○：成果等、▲：課題・具体策等を示す。

### 美しさの分かるやさしい子ども

#### 目指す児童像

【2.1】 挨拶や返事がしっかりできて、礼儀正しい子

【2.2】 互いによさや努力を認め合い、思いやりのある子

- 目指す児童像として大切な項目であり、次年度もこの児童像でよい。
- ▲ 「返事」を「正しい言葉づかい」とする。
- ▲ 「礼儀正しい子」の具体的重点的取組として、マナーを守ることにについて入れたい。

#### 重点的取組

【2.2】① 挨拶・返事がきちんとできる子を育成する。

WORST 4

- 朝のあいさつ運動、免許証は子供たちの意欲を高め、児童会との連携や全体での継続的な指導により、一定の成果は得られた。
- ▲ 挨拶については、決められた場所(校内)、機会(当番)では言えるようになっているが、そうでない時の挨拶ができるようになること、また返事についての組織的な働きかけをすることが課題である。

【2.1】② 「ありがとう・ごめんなさい」など、人を気遣う言葉がきちんとと言える子を育成する。

WORST 3

- ▲ 学校評価アンケートでも評価は低く、計画的・組織的取組にするための行動計画が必要だが、具体策は声掛けか、家庭への啓発等で、効果的方策が打ち出しにくい。
- ▲ この重点的取組として、「人が嫌がることを言わない」ことを指導すべきである。そのためにも、道徳教育をさらに重点的に取り組んでいくと良いのではないか。

【2.7】③ 異年齢交流活動等により、思いやりやリーダーシップを育成する。

BEST 2

- 異学年交流活動は目指す児童像に迫るために大変有効であった。6年生が良いリーダーシップをとって、下級生をまとめることができるようになった。下級生は、上級生の優しさやリーダーシップの取り方等に尊敬の気持ちを抱いていた。

【2.2】④ 「ありがとうの木」を活用し、互いに親切やよい行い、努力等を見つけ、認め合うことができる子を育成する。

- 「ありがとうの木」で人のよさや親切を認め、見付ける芽が育つ。普段言葉にできないことを伝えている子も増えてきた。
- ▲ 常時活動となり得るかという点が課題。ありがとうの木へのメッセージを書く日を設定するのもいいと思う。(毎月○○日等、ありがとうの日)

【2.0】⑤ 「思いやり・親切」を重点とした道徳的实践力の育成を図る。

WORST 2

- 道徳の授業でどの程度成果があがっているのかは分からないが、縦割り活動の中で、思いやりや親切の場面は見える。
- ▲ その場その場の指導はしているが、このことを意識し、焦点化した道徳の授業や道徳推進教師の話、授業研究等の研修など、計画的組織的取組が必要である。

### よく考え勉強する子ども

#### 目指す児童像

【2.3】 人と積極的に関わり、考えを広めたり深めたりし、学び合いができる子

- この目指す児童像で継続して指導していくと良いと思います。

- 学校規模を最大限に生かした児童像だと思う。
- ▲ 現行の言葉に是非「家庭学習ができる子」の文言を入れ、重点的取組としたい。
- ▲ ②と⑤の重点項目をあわせて授業を中心に組織で焦点を定めたい。

#### 重点的取組

- 【2.9】① 音読や暗唱など、相手に伝わるよう、人前で声を出す機会を積極的・計画的に持つ。**  
**BEST 1**
- ランチルームで全校児童の前で全員が発表する機会を得られたこと、音読集会や暗唱カードなど定着し、担任以外と接することは、子供たちの自信に繋がった。皆はきはき声を出せるようになったし、自然にがんばりを認められる。
- 【2.6】② 発表したり、意見・質問を述べたりする機会を、積極的・計画的に持つ。**  
**BEST 3**
- どんな意見でも発表できる雰囲気作りができてきて、いやがらずに言えるようになってきた。どの学年も以前より発表・質問など積極的に行うようになった
  - ▲ 学校生活の中心は授業であり、まずは授業で充実させるべきである。教員が授業の中で、どういうイメージでこの項目をとらえているか、意見交換をしたり、目標のレベルをそろえるなどしたい。
- 【2.4】③ ICT機器等を積極的に活用したりし、学んだことや調べたことを意欲的・効果的に伝えるプレゼンテーション力を育成する。**
- iPadを今年度新たに4台購入し、取組に対する環境が整い、活用することで児童の興味関心を高めることができた。中学年でも簡単なプレゼンが出来るようになってきている。
  - ▲ まずは教員がiPad等を積極的に活用するよう努力することが大切である。さらに、意図的にプレゼンテーション力に結びけるよう工夫するべき。
- 【2.5】④ 授業や集会等様々な機会に意見交換や学び合いなどに場を設け、主体的・協働的に課題を解決する力を育成する。**  
**BEST 5**
- 集会での議題や小グループで意見交換をする場面が増えたので、自分の意見を述べ考えを持つこと、相手の意見を聞き様々な価値観があることを知る場が提供されている。
  - ▲ まずは授業で工夫することが大切。研究授業等で本視点で授業を組み立て、研修・研究していくとよい。
- 【2.4】⑤ 多様な人と、ふれあいや、話を聞き質問する機会など積極的・計画的に持ち、コミュニケーション力の育成を図る。**
- 総合・社会・授業・修学旅行・校外学習・ふるさと交流学習・アシストネットを通し多様な人と交流する機会、外部人材活用が推進され、子供たちの成長が見られた。
  - ▲ コミュニケーション力の育成という観点で意図的な意図的な工夫が必要である。

#### 健康でたくましい子

#### 目指す児童像

- 【2.3】めあてに向かって努力し、成長できる子**
- ▲ 知徳体の体としての項目であるのに、「目当て・努力」「家庭との連携」は分かりづらい。家庭との連携を独立させてすることも視野に入れたい。
  - ▲ ①のめあてと③の達成目標の使い分けを共通で理解していない。同じとすると、①と③の重点的取組はほぼ同じものになる。

#### 重点的取組

- 【2.5】① 適切なめあての設定と、定期的・計画的な振り返りを行わせ、めあての達成のための努力を認め、賞賛する。**  
**BEST 4**
- 月ごとのめあての設定、振り返り等、継続的な取組により、意識化が図れ、現状に適しためあての見直し・変更を行うことができた。
  - ▲ 担当レベルで回すこと、学級差を出さないこと、適切な目当て設定の助言の仕方が課題である。
- 【2.4】② 運動・学習などがんばりカードなどを積極的に活用し、意欲の向上を図る。**
- がんばりカードを使った健康作りが下学年には有効。衛生検査や「健康生活」は学校全体で評価することでしっかり定着している。
  - ▲ 年度始めに全校活用の学習、生活のがんばりカード、検定制などを検討し、長期的・計画的にめあてに向かって努力できるよう計画することが必要である。
- 【2.5】③ 意欲的に取り組み、自らの努力や成長が実感できる、よい達成目標の設定や紹介を行う。**
- 詩の暗唱は昨年に比べ多くの学年で積極的に取り組み、「声を出す」目標の達成に繋がった。また、姿勢を意識させ、自ら意識できるようになってきている。
  - ▲ 学年にあわせてがんばりカード、上級生にあった方法の工夫、子供たちが達成感を感じられ、努力しようと思えるめあて設定についての指導力が課題である。
- 【1.9】④ 学校と家庭で連携し、めあて達成のための努力を認め、励まし、支援する。**  
**WORST 1**
- 「読書の記録」「生活チェックカード」はうまく機能した。
  - ▲ 家庭との連携の必要性は学習・生活・保健等多岐にわたるので、重点化し整理し、年間通して定着を図り、効果があるよう検討が必要。家庭学習について具体的な取組ができるようにすることが課題である。
- 【2.2】⑤ 目標に向かって、進んで体力づくりや、健康・安全な生活が送れる子を育成する。**  
**WORST 5**
- 6分間走をみているとサボる子はほとんどなく、よく努力している。個人差はあるが、水泳・陸上・駅伝・合唱・学習等、学ぶ機会は色々用意されている。
  - ▲ 先日の学校保健委員会でも話題となりましたが、体力向上と組み合わせ、姿勢保持ができるような筋力アップ、バランス力アップについて取り組みたい。